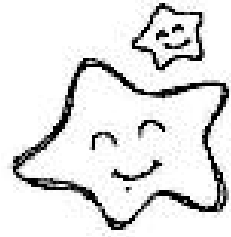


QSK

にぬふあぶし

No.257 ^ね子の方向の星(北極星)



お互い様様クッキング

皆さんこんにちは。暑い日が続いておりますが、熱中症にならないよう水分をしっかり取ってくださいね！

宜野湾市地域活動支援センター『はびわん』では、ご近所さんや地域の自治会との繋がりを大切にしています。日頃から交流のあるお弁当屋「ゆがふ」さんから時折、お野菜を頂きます。今回は、トマトとネギを頂いたので早速、『はびわん』の利用者さんも一緒にお料理を作りました。



ミニトマトでトマトソースを作り、ピザトーストにし美味しく頂きました☆



ネギは餃子の具材と、沖縄料理の定番「ヒラヤーチー」にたっぷり入れて調理！

今後、『はびわん』は、地域の方に支えられ協働して、活動を盛り上げていきたいと思っております。お近くにお寄りの際は、お気軽に支援センターはびわんに遊びにきてください。

「はびわん」情報：宜野湾市普天間 1-3-5 電話 098-988-8151

“この社会に属しながら、完全に与さずに生きられる道”を探す

いつだったか「変な人のつどい」という、よくわからない集まりに誘われたことがある程度には、自分も変な人間である。それで誘われて、北海道くんだりまで出掛けていってしまった程度には変な人間である。

尹雄大『協道にそれる』を読んで、自分のなかのそういう「変」な部分に、もう一度寛容になれた気がする。

著者は、仕事をしていても、スポーツをしていても、恋人と会話をしている、「必ず伴う、うまくいかない感じ」を、自分のなかに認める。なにかがぎこちなく、人と違うと感じる。人はしばしば、人と同じであることに価値を置き、「協道にそれる」ことを恐怖する。どこかで見た“普通”のイメージを模倣することばかりに努め、もともとある自分自身を置き去りにする。

鹿児島福祉施設『しょうぶ学園』のことが語られる。そこではいわゆる“ノーマライゼーション”の理念は存在しない。健常者がそもそもノーマルであるかを疑い、職員も利用者に関わるうえで「僕らの当たり前前に彼らを合わせる」ことをしない。

ピダハンのことが語られる。南米アマゾンの部族である。

文字を持たず、過去や未来という概念がない。したがって、過ぎた過去を悔やむこともなければ、まだ見ぬ将来を案じたりもしない。また、夢と現実の区別がない。

“いま、ここ”を生きるとは、そういうことである。

インタビュアーである著者は、多くの人たちを取材してそれを淡々と紹介してみせながら、普通とか常識とかいうことの意味を繰り返し我々に問う。ただし、そういう普通とか常識とかいうものが幅を利かせるこの社会から、無理に脱しようともしない。

「変な人のつどい」に誘われたことがなかったとしても、普通とか常識とか「かくあるべき」という呪いに少しでも窮屈さを感じたことがある人ならば、本を通して著者と一緒に協道を探すことが、きっととても楽しく感じられるはずである。



(尹雄大 著/春秋社)

「私宅監置」跡 保存訴え 県精神保健福祉会連 県に

県精神保健福祉会連合会の山田圭吾会長らは16日、県庁に砂川靖保健医療部長を訪ね、精神障がい者を民家の一角などに閉じ込める「私宅監置」に関し、本島北部に現存する小屋の保存するよう求めた。

山田会長や高橋年男事務局長は「私宅監置によって傷つけられた精神障がい者の尊厳を回復することや、社会の犠牲になり、苦悩を一身に背負った当事者の生きた証しを歴史に刻むためでもある。家族にしわ寄せがきていた精神医療の在り方を、社会全体で考える機会にしたい」と現存する小屋を歴史遺産として保存するよう求めた。砂川部長に現地視察も求めた。

砂川部長は現地視察に前向きな姿勢を示し「どういう状況なのかを確認しながら何ができるかを検討したい」と答えた。



砂川靖保健医療部長(左)に「私宅監置」小屋の保存などを求める山田圭吾会長(同2人目)ら=16日、県庁 2018/5/20 沖縄タイムス

当時の監置室のイメージ(映画の一場面より)



「我が国十何万の精神病者は実にこの病を受けたるの不幸の外に、この国に生まれたるの不幸を重めるものというべし」。精神疾患がある人を自宅に閉じ込める「座敷牢」の実態を100年前に調べ、「二重の不幸」

「座敷牢」廃止に尽力 医師の半生

記録映画「夜明け前」

精神医療の課題問う

だとして解決に尽力した精神科医・呉秀三(1865~1932年)の生涯を描くドキュメンタリー映画が完成した。2日から東京で公開。

映画のタイトルは「夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の

戸に生まれ、ドイツなどに留学後、東京帝国大学医科大学(現

3。

100年」。大阪府や兵庫県で昨年末以降、障害がある人が親に自宅で長期間監禁されていたケースが発覚。精神医療の現場でも患者の身体拘束や隔離などの問題が指摘されており、上映を企画したきょうされん(障害者が通う作業所の全国組織)の

藤井克徳専務理事(68)は「歴史は今を変えるためにある。呉がたどった足跡から、現代に続く課題を考えてほしい」と話す。呉は広島藩医の息子として江戸に生まれ、ドイツなどに留学

東大医学部)教授に就任、東京府東鴨病院(現東京都立松沢病院)の院長も務めた。当時は精神障害者のための公的施設が少なく、1900年制定の精神病患者監護法は親族が自宅に閉じ込めて監護する「私宅監置」を認めていた。呉は300以上の監置室の実態を調査し、悲惨な状況を明らかにしたほか、病院での拘束具廃止などに取り組んだ。私宅監置は50年に廃止された。映画は東京のアップリンク渋谷で2日から上映。6月下旬から各地で自主上映も予定されている。問い合わせはきょうされん、☎03(53385)2222

安心して過ごせるように！ ～法律相談窓口～

6月の相談窓口は下記のとおりです(弁護士相談は、無料です)

日時 6月12日(火曜日) 午後2時～4時

場所 てるしのワークセンター(南風原町宮平206-1)

※ 人権保護、財産手続き、社会保障、処遇改善等、対象はどなたでも
事前に予約をしてくださると助かります。

TEL098-889-4011 FAX098-888-5655

バレーチーム「てるしの」九州大会 派遣支援 お礼

『第4回こころんピック(ソフトバレーボール大会)』で、準優勝『てるしのワークセンター』チームが九州に派遣されることになりました。

6月9日の大分県で開催される九州大会に向け、選手たちは連日練習に試合に励んでいます。

チーム(14名)を派遣するために、多くの皆さまにさまざまな形で、応援いただきました。本当にありがとうございます。
九州大会の結果は次号で報告させていただきます。



編集後記

梅雨のはずなのに、雨が降らず..
過ごしやすいですが、農家の方にとっては死活問題ですね。

先日、流行のリゾート婚に参列しました。列席者は全員おそろいのアロハシャツに白パンツという姿、まるでホテルの従業員のようでしたが、今はそれがおしゃれなんです。(A・T)



編集：公益社団法人

沖縄県精神保健福祉会連合会

会長 山田 圭吾

〒901-1104 南風原町字宮平 206-1

てるしのワークセンター内

電話 098-889-4011 FAX 098-888-5665

E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp

発行：九州障害者定期刊行物協会

〒812-0024 福岡市博多区網場町 1-17

福岡パーキングビル 4階

Tel.092-753-9722 Fax.092-753-9723

定価：10円(会費に含まれる)